

令和3年

長野市民生委員児童委員協議会 第46号



民児協ながの

発行 長野市民生委員児童委員協議会
会長 伊藤 篤志
編集 広聴広報委員会

長野市緑町1714-5
長野市社会福祉協議会内
電話 026-225-1234

新年のご挨拶



会長 伊藤 篤志

新年にあたり
謹んでご挨拶申
し上げます。昨
年は新型コロナ
ウィルスの襲来

により、私達の生活は一変しました。日本中いや世界中がウィルスに翻弄され日常の生活行動が出来ない状況となり委員活動も制約が生じました。見守り活動や定例会、地域活動も、本来の活動が出来ず、委員の皆様には多大なご苦労をいただきました。

10月22日、第89回全国民生委員児童委員大会が横浜市で開催されました。当初高崎市での開催予定が変更され、期間も1日に短縮され129名の参加となりました。

得能会長は祝辞で、多くの委員が、「わが町」に見合った創意工夫を凝らし、人と人を繋ぐ活動を模索し、再開しています。厚生労働大臣に委嘱された誇り、使命感、民生委員信条を胸に、一層の研鑽に努められたいと、述べました。結びに、全国23万人の委員が、行政・社協、地域の様々な方々と連携し、誰もが安心して暮らすことが出来る地域づくりを目指すことを確認した大会宣言が採択されました。

感染の終息が見えず、この先も心配です。改選後の新委員の皆様には、多くの課題にご苦労いただいております。本年2月予定の全体研修

も、実施できることを祈るばかりです。課題山積の新年ですが、皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げ新年のご挨拶と致します。

専門部会全体研修会開催報告

コロナ感染拡大が終息を見せない中、部会事業も先送りを余儀なくされましたが、各部長さんの一大決心の下、研修会が開催されました。

部会長 宮下 弥子

当初の計画「視察研修」に替えて市子育て支援課・河西課長による講演会を開催しました。新任の方も多いことから「長野市の子育て支援について」子育て支援・児童虐待への対応など「支援制度を体系的にお話頂きました。こども未来部の業務内容や市の総合計画に於ける位置付け、子育て支援課が担う家庭への支援、ひとり親への取り組み、先般の災害時の対応等、詳細に説明。虐待を含めて児童相談所への相談は増加の一途で要保護件数も増えている中、家庭に最も近い民生児童委員との連携が大切と相談連絡先一覧も提示頂き、次回現場のお話を児童相談所から伺う予定です。

障がい者福祉部会 10月15日

部会長 大池ひろ子

研修会は「精神に障害があるってどんなこと」を演題に、社会福祉法人絆の会の土井まゆみ氏の講演と障害当事者お二人から体験発表。講師からは「精神障害の病気を知りその人自身を肯定しながら理解してい

く」ことを学びました。

体験発表で、Aさんは病気の症状である妄想による人間関係の破綻、精神科受診、失職を経て就労支援事業所に。そこでは話を聞き相談にのってくれる職員がいて心境に変化が生じ、就職につながったこと。またBさんは20年の引きこもりを経て現在、福祉事業所で就職を目指して働いていることや自立への思いを話されました。精神に障害のある人の話に耳を傾け、ありのままを受け入れ、自己決定をサポートしていくことの大切さを実感しました。



研修会では「たすけあいのまちづくり」生活支援体制整備」を演題に、講師は市地域包括ケア推進課の中西則行係長に依頼。

介護保険の制度も変化し、給付の中心が要介護3以上の者へ移りつつあり、要支援は一定期間の利用を想定、という状況になってきている。今後高齢者人口が一層増加することから、介護保険制度だけでは十分対応することができなくなる。5年・10年先まで見据えた地域包括ケアシステムの構築の重要性を学びました。出席委員からは助け合い・支え合い、高齢者の社会参加について熱心な質疑がなされ、充実した研修会となりました。

部会長 岩下 秀雄

高齢者福祉部会 11月19日

人として成長したい

朝陽地区民児協 広沢貴美子



前任の方がとても感じの善い方で一困つたらあの方に相談できるのならそれが私がお引き受けした最大の理由でした。たまたま実母が高齢独居で訪問を受けており、恩返しのためにもありました。

前任の方のように明るく優しくと意識し緊張で何うお宅では、皆さんが快く迎え入れて下さり、代々の先輩方々が良き関係を築いてこられたのだなと、改めて身の引き締まる思いです。

案ずるよりも生むがやすし

古里地区民児協 徳武 敬子



若輩者の私が、民生児童委員という名誉ある大役をお引き受けしてから1年が

経ちます。職務に対するイメージ、歴代の委員の皆様のお顔と実績が頭に浮かび、私に務まるのかと不安だらけで始まった12月。委員の皆様にお導き頂き動き出したところでしたが、今年はコロナ禍で委嘱式を始めとする様々な活動が中止となる中、何をどうしたらいいのかと焦るばかりでした。そんな不安を先輩委員さんに相談する

お元氣な方が多いこともあり、人生の先輩に当たる方から学ばせて頂く事の何と多いことか。ご苦勞なされた事、おひとり暮らしで工夫なさっている事など、とても勉強になり、訪問させて頂いた後は私の方が心満たされる思いとなります。

1年経つてもまだまだ分からないことだらけですが、人生勉強できますことに感謝し、少しでもお役に立てますように、心こめてさせて頂きます。

と、「無理なくできる時にできる事をやればよいですよ」とアドバイス頂き、少し気持ちが楽になりました。毎月の定例会や関係機関から情報を含めてお便りを作成し、担当する常会の独居の方へお届けしました。また、中止されていた体操教室や食事会等々が少しずつ再開され、その日を待っていた皆さんがお顔を合わせると、沢山の笑顔が見られ弾む会話に心が和み自分に課せられた根底の事が分かったように思います。また、コロナのこれから、委員の皆様、地域の皆様、各関係機関の皆様からのお導きを頂き、残された任期の職務を全うして参りたいと思います。

就任から一年 新任委員の声

コロナ禍での民生委員活動

更北地区民児協 岡田 年子



昨年末より民生児童委員を務めてから1年を迎えます。この1年を振り返ると、まだ民生児童委員の役割も解らない状態で新型コロナウイルス感染症拡大により、緊急事態宣言に始まり

ました。見守り対象者の訪問活動もままならず、委員同士での話し合いも出来ない状態で各種行事中止、定例会も分散となり、委員活動も手探り状態で不安の毎日でした。

地域の見守りと信頼関係の構築

安茂里地区民児協 堀内 茂男



令和の新任民生児童委員になり、「台風19号災害」と「コロナ感染症」対応の

不安な1年が経過しました。最初は先輩委員と担当高齢者宅を訪問し、現状把握の第一歩を踏み出しました。身近な地域に多くの独居者や高齢者夫婦が居住しており大変驚きました。地域の行事やお茶のみサロン等に参加し、安茂里地区定例会での報告や発表・勉強会等から、一人一人相談や支援が異なる事と、自分自身

た。新人のため見守り対象者と面識が薄くどの様に活動を行えばよいか葛藤の日々です。訪問活動は接触を避けるため手紙でコロナ禍での日常生活の注意点や最近の世情などを記載し相談窓口として、活動に努めた結果少しずつ親しみを持つて頂き、心配事など相談の連絡を頂ける様になり、日々の活動の自信につながっています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため新しい生活スタイルに合わせ、地域住民が安心・安全で幸せに過ごせる社会を目指し、地域を見守り専門機関へのつなぎ役として微力ですが、努めていく覚悟です。

が幅広い知識と経験を積み、臨機応変に対応できるよう前向きに取り組む事を強く感じるようになりました。

現在は第3波の大きなコロナ禍中であり、より「3密」回避のため県内外の移動が叶わない状況下ですが、一方では手元にあるスマホやパソコンを駆使して、お孫さんやそのご両親と毎日遠隔で顔を見ながら会話をしている高齢者もおり、淋しさを乗り越え新しいものに取り組みむ努力に心を打たれました。

これからも地域の皆様のご支援を得ながら、地域の実態や要望を把握し、相談や支援活動をしてまいりたいと思います。

ケア会議では全員発言

大豆島地区民児協会長 広瀬 一雄



全員で話し合うケア会議

大豆島地区民生児童委員協議会は、主任児童委員2人を含めて17人で活動しています。そのうち、男性の委員は7人、女性の委員は10人で、2期目委員が6人、1期目委員が11人という構成になっています。

昨年は、2月から新型コロナウイルス感染症が流行し、現在に至っても終息するメドがたたない中で、殆どの行事や会議等が中止や見送りをせざるを得ない状況でありましたが、毎月1回開催する定例会は、委員の安全を考えて3月・4月は中止し、5月から再開してマスクの着用と消毒、3密にならない対策を取り、広いホールで行ってきています。

定例会では、前半は関係機関からの伝達事項、後半はケア会議の時間を約1時間程取り、自宅訪問活動の中で困っていること、悩んでいること、また相談されたこと等の活動状況を含め、委員一人ひとりから発言してもらい、地域包括支援センターの方からもアドバイスをいただきながら、委員全体の共有化をしています。

また、その時々に必要な課題についての研修では、例えば(一)台帳・名簿等の個人情報取扱い、(二)ひとり暮らし高齢者の「自宅訪問活動」と緊急時の対応について、(三)ハンドブックを活用した「災害に備える民生児童委員活動」、(四)「避難行動要支援者台帳」の調査と「私の避難計画」作成等について、ケア会議の中で話し合ってきています。

日常活動では、ひとり暮らし高齢者への訪問を最低月1回以上、月2回を目標にし、避難行動要支援者への訪問も月1回以上を目標に取り組んでいます。

今後は、益々高齢化が進む中で、安全で安心して生活できる地域づくりをめざして、地域の役員の皆様方と一緒に力を合せて活動して行きたいと思えます。

発信・わが民児協

コロナ禍の民生児童委員活動

篠ノ井中央地区 宮崎平八郎



紙芝居で地域の皆さんにも好評

篠ノ井中央地区民生児童委員は、17地区の民生児童委員34名と主任児童委員2名で構成されています。新任委員29名、2期目以上の7名で本年度スタートしました。

2年度の定期総会も書面決議で行われました。昨年12月一斉改選で選任されて1年過ぎましたが、コロナ禍で委員間の情報交換や各地区の活動も制限され、民生委員未経験者の私は不安でいっぱいの日々でした。

6月よりコロナ感染対策を行い定例会が開催され各地区の活動も少しずつですが動き出しております。私の担当する篠ノ井西組区の活動を紹介します。

今年度の計画では「ふれあい会食」が7回「お茶のみサロン」を2回行う予定でした。現在「ふれあい会食」4回「お茶のみサロン」1回 6月より感染対策をとり会食をとらないで開催を致しました。

昨年12月に、臨時総会と定例会が開催されました。1月に日本国内で新型コロナウイルス感染者が確認され4月に全国に「緊急事態宣言」が表明され感染拡大防止のため小学校等への活動、各地区の訪問・相談活動、サロン活動、定例会等の会合についても延期や文書審議への変更を余儀なくされました。3月から5月の定例会が中止となり令和

11月9日の「お茶のみサロン」では青の会のメンバーにお願いして紙芝居「たべられたやまんば」やオカリナで数曲演奏をしていただきました。最後に長野市で推奨している「イスに座って運動・毎日のびのび運動」を行い閉会となりました。最後の四半期については長野市の感染状況により未定ですが開催する時は「手指の消毒」「マスク着用」を行い密にならないよう十分に注意して行いたいと思えます。

祝表彰(敬称略)

次の方々が栄えある表彰を受けられました。おめでとうございます。

◆厚生労働大臣表彰

伊藤 篤志(松代)

◆監綴褒章

井原きみ枝(古牧)

西澤 定男(芋井・元委員)

◆全国社会福祉協議会会長表彰

徳竹 貞夫(浅川)

傳田 恭司(松代)

岩下 秀雄(吉田)

◆全国民生委員児童委員連合会会長表彰

優良民生委員児童委員協議会表彰
長沼地区民生委員児童委員協議会
(永年勤続)

松尾修一郎(信州新町)

◆長野県社会福祉協議会会長表彰

松尾修一郎(信州新町)

◆長野県民生委員児童委員協議会
連合会会長表彰

(永年勤続)

南澤 圭子(第二)

小林 光子(第一)

南澤 厚子(川柳)

下条 光子・宮下 弥子

(以上七二会)

深瀬 敏一(長沼)

宮原 正子・山岸眞由美・

山田 孝子・南澤 弘子

(以上第三)

宮入 長子(更北)

竹田 孝司・岡田 礼子・

中沢 祥世・笹山十三子

(以上芹田)

坪野 武茂(若槻)

金澤惠美子(吉田)

増田 幸子・黒岩 康子・

牧野 信子・市川 公子
(以上三輪)

牧野 憲明(古里)

酒井 國夫(共和)

若麻績茂伸・和田 健夫
(以上古牧)

水間 暉子(川中島)

溝口 俊子(安茂里)

2期目以上研修 11月25日

朝陽地区民児協 助川千恵子

講演は石井布紀子氏(NPO法人
さくらネット代表理事)による「災
害発生時の民生委員の役割」でした。



災害時の民生委員の役割

昨年の
台風19号
で長野県
支援を担
当され、県
社会福祉
協議会防
災アドバ
イザーと
して復興
支援や災
害時要配
慮者支援
に取り組
まれた様子をお話し下さいました。

被災地区民生委員さんの避難声掛
けの様子、被災された皆さんの現状、
ボランティアセンター、地域支え合
いセンターの運営状況、また国内の
コロナウイルスの発生による困難な

状況等復興への道のりは長く、様々
な支え合い活動が必要となる事を知
りました。

災害発生時、委員自身も被災する
こともあり、自身の命を最優先に無
理をせず事前避難行動の支援を
行うようお話がありました。

要支援者本人や地域ぐるみで防災
意識を高め、支援活動に結び付けて
いく必要や復興期には、声掛けなど
の寄り添い活動が大切と強調されま
した。

民生児童委員は平常時のつながり
を育む活動が大切、助けての声を
キャッチする力をつけること等教え
て頂きました。

民生児童委員になった原点に戻っ
て「民生委員の役割」つなぎ役を果
たせる様にしたいと思えます。

1期目研修 地域の灯台

古里地区民児協 盛田 千晴

研修は、10月6日ホクト文化ホー
ルにおいて約900名が参加し、地
域における福祉課題・生活課題の理
解と委員の任務と役割等について理
解を深める目的で行われました。

講義は「把握し、つなぎ、見守る」
を推進しようと題して講師・泉恵造
氏(研修企画工房代表社員)が「民
生委員信条」の5つについて詳しく
解説され、「信条」の精神について
学び教えて頂きました。

信条1 隣人愛と福祉
お互い様、放っておけない

信条2 地域社会の実情
少子化・進む核家族化等諸課題の

実情把握が大切

信条3 相談に応じ自立の援助

委員は日常何をすればよいか相談
援助(アシスト)から相談支援(サ
ポート)へ

信条4 すべての人々に関わる

自分のこととして地域を想う、地
域の主役は住民で主体的に地域に
関わる

信条5 人格と職見の向上

常に公正と公平を旨とする

最後に講師は民生委員・児童委員
は「地域の灯台」でいてほしいと説
明。あの光の元に行けば温かい笑顔
が待っている、優しい何かを迎えて
くれる、安堵感や安心感を得ること
ができる存在になってくださいと結
ばれ、有意義な研修会でした。

編集後記

昨年12月に新任委員さんと共に
活動が始まりました。年明けより
コロナウイルス感染症で定例会も
中止やらソーシャルディスタンスに
配慮した会議での困難な1
年でした。

見守り活動も感染予防の為に電
話を活用したり配布物やお手紙を
して、委員さんそれぞれが寄り添
い活動に工夫してこられたことと
思います。

1期目の委員さんは大変でした
でしょう。今号では「新任委員さ
んの声」を紹介させて頂きました。
(助川)